

⑦市民説明会、意見募集

< 概要 >

次のとおり長崎まちづくりのランドデザイン2050（素案）の市民説明会及び意見募集を実施しました。

開催日：（1）市民説明会 令和7年8月23日～9月1日 （2）意見募集 令和7年8月23日～9月30日

内 容：長崎まちづくりのランドデザイン2050（素案）について

参加人数又は意見提出人数：（1）84人 （2）17人

< 素案に対する主なご意見 >

（1）市民説明会

- 将来のランドデザインを描く前に、現状の問題を対処してほしい。
- これからのまちづくりを担う若い世代の意見をしっかりと聞く必要がある。
- 自治会には若い世代が少ないし、いてもつながりを持とうとしない。地域のつながりが不可欠であるからそのあたりのことも含めて考えてほしい。
- ランドデザインの本編にも将来の人口推移や年齢構成比を記載するなど、将来、長崎市がどのように変わっていくのかを掲載する必要がある。
- 説明会に参加する人数が少ないことは、市民の危機意識の低さからくるものだと思う。資料でも危機感を抱くような書きぶりが必要ではないか。
- 良い計画だと思うが、具体的なことが記載されていない。
- 市民や民間事業者が具体的にどのようにまちづくりに取組めばよいか分からない。
- 総花的な内容であり、財政上、これらの取組みを推進することは現実的ではないのではないか。何に取組めば良いまちになるか焦点を絞って記載するべきではないか。
- ロードマップの作成や取組みの優先度をつけるなど、今後の動きが分かるようにしてほしい。
- 計画期間が長すぎる。短いスパンで確実に計画を進めてほしい。
- 仕事がなければ人口流出は止められない。
- 長崎市は土地が少なく、他の都市に住まいを確保する人が多い。東部地区は平地があるため、そのあたりのことも考えてほしい。
- 観光客を周辺部にも呼び込むためには、周辺部をしっかりと管理し、魅力を磨き上げ、いかに伝えるかが大事であると思う。
- 公共交通の便数が減り不便である。周辺部を見捨てないでほしい。三重地区でもデマンドタクシーの運行が必要になってくると思う。
- 学校の統廃合は仕方ないが、旧尾戸小学校のように放置せず、活用方法を考えてほしい。
- 斜面地から平地への居住誘導を進めてほしい。
- 立地適正化計画の考え方が、ランドデザインの中では薄いように感じた。
- 様々な切り口があり、都市計画課だけでは実現困難だと思う。
- せっかく作ったランドデザインを市民に知ってもらえるようにすべき。

⑦市民説明会、意見募集

< 素案に対する主なご意見 >

(2) 意見募集

● グランドデザインの位置付けや他の計画等との関係性について

- 総合計画、経済成長戦略、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、その他、福祉、教育、環境や交通などにかかる計画や政策との関係や位置づけを明確にするべきではないでしょうか。
- これまでの計画がどのようなもので、なぜ違う計画にしなければならなかったのか明確に知りたい。

● 都心部の取組みの方向性について

- 都市部において、アーバン・パーマカルチャーを実装し、地域でエネルギーやモノが循環する仕組みを取り戻すことが重要。
- 「人中心の楽しい都市空間を創出しよう」では、「移動の支援」で次世代モビリティの活用とあったが、街歩きをしてもらいたいということを掲げているにも関わらず矛盾しているように感じた。
- 都心部に人を呼び込むことは悪いことではないが、都心部の周辺がそれにより人が来なくなるのでは、まちにとってそれは本当に良いことなのかと疑問に思った。

● 斜面市街地について

- 眺望の良さを生かし、空き家を宿泊施設や食事処にリノベーションするなどの事業に補助をしたり、民間企業に安く譲渡するなどして活用してはどうか。平和学習もできるようにすると、より充実した施設になると思う。
- 長崎の夜景は、坂道にある住宅などの建物が大きな役割を果たしていると思う。しかし、市の計画の一部では坂道の家屋を無くし、住民を中心部のマンションに下ろすという計画もあり、市の魅力を無くすということになるのではないかと。

● 都心部と周辺部のつながりについて

- 地形的な制約で、自転車の利用率が全国で見ても低いですが、それを理由に自転車の可能性を捨てるのではなく、むしろだれもが快適に移動できる手段として積極的に活用してほしい。
- 「誰もが円滑に移動できるネットワークづくり」とある一方、現状は公共交通の減便や路線廃止が進んでいる。自動運転やMaaS導入は将来性があるが、赤字路線維持や高齢者の移動支援などの現実的な対策も同時に示してほしい。

● グランドデザインの推進について

- グランドデザインを実効性のあるものにするためには、デザインの内容を関係者が理解・納得して推進すること、そして、進捗状況をどのように評価・修正・発信していくかが重要です。個々の計画と全体計画の推進役を明確にし、推進メンバーが短期間のうちに変更にならないよう、持続的な推進をお願いしたい。

● 「オール長崎」について

- 「多様な主体が緊密に連携・協働してまちづくりを進める」「全国の関係・交流人口の皆様と共創する」といった表現があるが、これでは市民一人ひとりがまちづくりの担い手になる必要はないと受け取るのではないかと。「オール長崎」であるなら、全市民がまちづくりに関心を持ち、説明会等に多くの人が集まるようになってほしい。
- 「オール長崎」の実現には様々な関係者や行政との連携が無ければ実現できないとあったが、市民との連携の方がより重要なのではないかと感じた。

● コンパクトなまちづくりについて

- 市の中心部に人口を集め、コンパクトシティを実現してほしい。
- 「コンパクトで安全なまちづくりの推進」で、「災害の危険性が高い場所などから、安心して暮らしやすい場所への住み替えを促す」とあるが地域に愛着を持っている人にとっては簡単なことではない。だからといって住む権利を奪うことも違うと感じた。それなら危険性をしっかり伝えた上で、その住民で防災について考える機会を作り、定期的に防災の備えをしていくことでみんなが暮らしやすいまちにつながるのではないかと。

● まちづくりの方向性全般について

- 人口流出を止めたいならば、今、人口が増えている地域の利便性を高めていく必要があると考える。
- 「平和を感じさせるまち」というコンセプトでまちづくりをお願いしたい。
- ユニセフ日本型CFCI（Child Friendly Cities Initiative）に参加し、「子どもにやさしいまちづくり実践自治体」として承認を目指すことを提案

● 先行する政策や計画の評価の必要性について

- 多様な分野における先行する政策や計画の振り返り無しにグランドデザインを考えるのはいかがでしょうか。
- 「ナガサキ・アーバン・ルネッサンス構想」が参照されていますが、その成果や課題の検証が示されていません。過去の計画からの学びをどう今回の素案に活かしているのかを説明していただければ、理解が深まると感じます。